

コラム



(70)

## 二つの石像

いつもの蕎麦屋さんが休業だったので、お店探しをかねて近辺を散歩しました。そのとき、二つの石像が駅前に建てられていることを発見しました。向かい合わせに建っています。一体はお地蔵様、もう一体は若い女性の石像。その場になじみ、意識しなければ気づかない二体です。

石像の由来書きを確かめてみました。一体には、「見守り地蔵」という名前がつけられています。殉職した二人の警官を悼んで建立されました。お二人は、歳末警戒の見回り中に、踏切で電車と接触し、殉職。昭和 27 (1952) 年のことです。それを悼んで、有志

が昭和 28 (1953) 年に建立。当初は事故が起きた踏切のすぐ傍に建てられましたが、高架工事にともない現在地に移されたとのこと。場所は動きはしたものの、お地蔵様は事故のあった踏切跡を、優しい表情で見守っておられます。また、常に花が絶えません。どなたかが欠かさず、お供えを続けておられるようです。

もう一体は、平和を祈る乙女像です。お地蔵様とは反対向きに建てられています。銘には、平成 24 (2012) 年と記されています。最近のものです。ただし、その祈りのきっかけは、東大阪市が体験した空襲の記憶です。昭和 20 (1945) 年 8 月 6 日 (広島に原爆が投下された日) の空襲で、小阪駅南側の123 戸が焼けたそうです。その 6 月の第四次大阪

中嶋 哲夫の

「人事も歩けば」



▲隣同士に並ぶお地蔵様と乙女像

空襲では、大阪市内が焼野が原になっています。そんな記憶が背景にあり、平和のシンボルとして、この像が建てられたとされています。東大阪市が建てただと推測しました。

二つの像をみて感じたことがあります。それは、お地蔵様から思い浮かぶ具体的イメージと、平和を祈る乙女像のイメージの違いです。乙女像にはなんの抵抗もなく共感できます。しかし、そこでとどまります。いっぽう、お地蔵様みると、共感よりも自省の念に駆られます。職務に忠実たらんとして殉職された警察官。その行為を悼んで、お地蔵様を建立する有志。現在もお花を手向ける地元の方（次世代の方だと思います）。そんな方々が思い浮かびます。日々のルーチンに追われて忘れがちな、職業の社会的な責任（職責）を果たせているかを、思い起こさせる強さをお地蔵様に感じます。

(MBO実践支援センター代表／大阪商業大学特任教授)